



オリンピックピックという 夢舞台への思い

——2月に開催されたソチオリンピックピック、手応えはいかがでしたか？

小笠原 まずは出場できたことが、何よりもうれしかったですね。やっとの思いで国内予選を勝ち抜き、手にした切符でしたから。強豪チームを破って5位入賞を果たせたことも、チームにとって大きな自信になりました。

船山 私たちにとって3度目のオリンピックピックでしたが、2人とも一度活動を休止し、復帰後に再び世界の大舞台に立てたことはとても感慨深かったです。上田市長にもソチまで応援に来ていただきましたね。

市長 ええ、私も現地で観戦させてもらいました。練習の時から見ていましたが、得も言われぬ緊張感に圧倒されましたね。そして迎えた試合は本当に素晴らしかった。どの選手も誇りに満ちた表情をされていて、各国の代表として選抜された人たちが集う、まさに「スポーツの祭典」という名にふさわしい特別な空気感がありましたね。

——オリンピックピックには、ほかの大会とは違った雰囲気があるのですか？

小笠原 そうですね。スポーツ選手であれば誰もが一度は夢見る憧れの舞台。会場は、そうした選手たちの思いや世界中から集まってくる観客たちの



写真提供：日本カーリング協会



熱気であふれています。開会式や閉会式では、その土地ならではの素晴らしい文化にも触れることができるので、私たち選手も観客の一人として、いつも新たな感動と興奮を覚えます。

市長 オリンピックは、そうした各地の文化や伝統を広く世界にアピールし、その魅力を高めていく絶好の機会にもなっていると思いますね。

——札幌市も2026年冬季オリンピック・パラリンピックの招致を表明しましたね

市長 はい。このまちの魅力を世界中の人たちに知ってもらえる、また新たなチャンスになると確信しています。前回の札幌オリンピックから40年余りが経ちました。開催都市としての市民の誇りを高め、未来の子どもたちに新しい財産を残すだけでなく、2度目という過去の経験を生かした新しいオリンピックのかたちを提示していければと思っています。

——お二人は札幌の招致表明を、どんな思いで聞かれましたか？

船山 地元開催となると夢や希望が膨らみますね。選手もそうですが、見る側にとっても、いろんな国の人たちと触れ合ったり、会場の雰囲気を肌で感じたりすることができるので、忘れられない感動の機会になると思います。

小笠原 私自身、長野オリンピックのカーリング競技を会場で見たのをきっかけに、「オリンピックに出たい」と